

# 技術屋魂

Engineer spirit

執行役員

敬島 治

Osamu KEISHIMA



私自身、30年あまり車載用電子機器の開発・設計に携わってきました。

携わった商品は、車載用通信機(一般的に言うタクシー無線)から始まり、ボディー制御機器、オーディオ・マルチメディア機器など多岐にわたりますが、技術者として共通に注力した点は、車載という厳しい環境下(電源変動、ノイズ、温湿度変化など)でいかに性能・機能を安定して長期間確保するか、そのためにどんな設計(配慮・工夫)をするかということでした。

車載用電子機器は、この30年で、ユーザ様の要求を満たし、また新しい価値を提供するために、機能・サービスが大きく進化してきました。車載用オーディオ・マルチメディア機器を例としてあげますと、単に車室内でラジオ・音楽が聴けるものから、より良い音を目指しデジタルメディア(CD、デジタル放送など)への対応や、より安心して快適に目的地へ到着できるナビゲーション機能の追加、さらに車外と“つながる”ことで、インターネット上にある溢れんばかりの情報を車室内で有効に活用できるまでになってきています。

これらに対応するための商品開発は、ソフトウェア規模が肥大化(約一万倍)し開発人員も大規模化(約百倍)、ハードウェアは、CPU動作周波数が高速化(数百倍)により、シビアな配線設計、ノイズ・放熱対策など、高度で複合的な技術・ノウハウが要求されるものになっています。

また、今後は、ADAS(先進運転支援システム)や自動運転システムが成長分野と考えられており、これらをもとに車両制御やドライバー通知を行うことで、事故の未然回避や交通を制御する安心・安全に対応する時代に突入してきています。これを実現す

るためには、従来の自動車関連の技術の枠を超えて、各種センシング技術の開発・社会情報の活用・高度に処理する情報処理技術の開発を加速していかなければならないと考えております。

しかしながら、提供する機能・サービスを企画し、技術的な課題を克服し、それ以外のハードル(採算性、保守性など)も乗り越え、商品に仕上げるのは“人”(≡技術者)というのは変わっていません。

データ分析や設計支援ツールなども進化・高度化してきていますが、最後は“この商品を世に送り出したい”と強く想う技術屋魂のもと、自分たちの技術力を信じ・磨き、立ちあがる問題が生じても必ず解決させ、商品化という明確かつ魅力あるゴールに向かって行動するからこそ目の見えるのだと思います。

また、開発規模の肥大化に伴う開発人員の増加に対して、技術者は、これまで以上にチームワーク・コミュニケーションの重要性も高くなってきています。単に技術的な知識やアイデアを具現化できる力だけではなく、人としての魅力や思いやりなどの人間力と共に、メンバーが一丸となって、知恵を尽くし、プロジェクト推進を行うマネジメント力も不可欠となっています。

我々が急速に発展・様変わりしている車載電子機器分野で成長し続けるために、私は、持てる能力(技術力・人間力・マネジメント力)のすべてを発揮し熱い技術屋魂で商品開発に取り組む技術者達にエールを送り続けるとともに、私自身も第一線から退くまでは、一技術者として熱い魂を持って、目標・課題に向き合っていく所存です。

散島 治